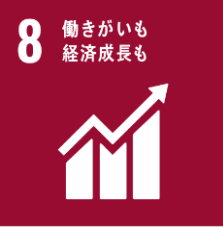


政策変遷からみる文化観光の形成と博物館の関係の変容

朱 麗梅

北海道大学 大学院 文学院

文化多様性論講座 博物館学研究室



未来社会のあるべきかたち

◆ 地域の文化が、次の世代へ受け継がれる社会

◆ 博物館が、まちと訪れる人をつなぐ社会

◆ 「守る」と「活かす」がめぐり合う地域づくり

1. 観光への期待、博物館の慎重な姿勢、それでも進む政策

近年、博物館は地域における重要な観光資源として位置付けられ、その役割への期待が高まっている。一方で、博物館現場では、観光との関係について慎重な姿勢も少なくない。

このような認識の違いがみられる一方で、政策レベルでは博物館と文化観光との結び付きは徐々に強化されてきた。2022年の博物館法改正では「文化観光の推進及び地域の活力向上への寄与」が新たに努力義務として明記された。

2. 本研究の問いと調査手法

社会教育施設として位置付けられてきた博物館は、なぜ文化観光の推進にまで努めることが求められるようになったのか。その変化は、近年突然生じたものなのか、それとも政策変遷を通じて形成されてきた長期的なものなのか。

本研究は、戦後から現在までの博物館・文化財・観光に関する政策文書を対象とし、政策転換点を基準として八つの時期に区分することで、「文化観光」の形成過程と、それに伴う博物館の役割の変化を明らかにする。

3. 明らかになったこと

● 八つの時期



● 政策の変遷

1. 観光政策：目的の転換

「外貨獲得」の手段、名所旧跡の「点」的消費
→ 地域文化を活かす「面」的まちづくりへ
→ 保存と活用の好循環、持続可能な地域社会の基盤

2. 文化財政策：対象の拡張

個別文化財の「点」的な保存
→ 地域全体を対象とする「面」的な活用
→ 保存と活用の好循環

3. 博物館政策：役割の適応

「社会教育施設」
→ 観光・文化財政策の変容に受動的・遅行的に適応
→ + 「文化観光の拠点」へ

文化観光

「文化観光」は、単線的あるいは突発的に生じたものではなく、博物館・文化財・観光という三つの領域における政策変化を通じて形成されてきた長期的な政策プロセスの帰結である。博物館を取り巻く環境や役割もまた、長年にわたる政策変遷のなかで変化しており、今日の文化観光拠点としての位置付けは、その延長線上にある。

4. 考察：博物館を取り巻く環境及び期待されている役割の変化

1. 活動領域の拡張

館舎（ハコ）内での完結から
地域全体へ、
来訪者を導く「ゲートウェイ」へ

3. 経済システムへの統合

行政支出に依存するコストセンター
から「保存と活用の好循環」を担う
プロフィットセンターへ

2. 提供価値の質的転換

「学術的価値」の担保から
「物語・意味的価値」を伝える高度な
インタープリテーション機能へ

4. ガバナンス構造の変化

行政主導の垂直的構造から
DMO・地域住民等と水平連携する
観光地域ガバナンスの中核へ

※ 以上は政策が博物館に寄せる期待を示したものであり、博物館現場における受容や実態については、今後の研究課題とする。